

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970101960		
法人名	鹿野建設株式会社		
事業所名	グループホームうつのみやファミリー		
所在地	栃木県 宇都宮市岩曾町 441-2	電話:	028-689-3021
自己評価作成日	平成 25 年 12 月 19 日	評価結果市町村受理日	平成 26 年 2 月 10 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、のどかな田園風景の中にあり、四季折々の景観を楽しむ事ができます。家庭的な温かさのあるホームで、家事仕事の好きな方々と台所に立ち、調理をしたり、買い物に出掛けたり、ホーム内では歌を唄ったり、おはじきをしたり、お一人おひとりに合わせた生活を送って頂いております。

※事業所の基本情報は

基本情報	
------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク栃木福祉調査センター		
所在地	栃木県 宇都宮市 大和 2-12-27 小牧ビル3F		
訪問調査日	平成 26 年 1 月 29 日	評価確定(合意)日	平成 26 年 2 月 10 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

宇都宮市の北部郊外の広々とした田園の一角に位置し、2階建て2ユニットの事業所です。地域の行事や近隣の小・中学校の運動会や高校の文化祭に参加したり、蕎麦打ち、大正琴更には複数の高校からのボランティアも受け入れており、幅広い交流を持つ事で理念の一つである楽しく生活ができるよう支援している。自由な生活を楽しめるよう四季折々の花見やフルーツ狩りなど、時には自作のお弁当を持参して出かける外出支援も重視している。毎日の食事作りを食材の購入から後片付けまで、自己の力を発揮できる好みの分野を担当し、食事を作る、全員で味わうの二重の喜びを感じながら充実した生活を支援している。運営推進会議には利用者4名が委員として参加しており野菜作りの得意な委員に活発に質問をしたり、実際に事業所の菜園で指導を受けたりしている。管理者の弛まぬ努力で地域の理解、交流も徐々に深まっている。また、好評の事業所便りも再開しており、理念の着実な実践を通し職員が一丸となって取り組んでいる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果「グループホームうつのみやファミリー」すみれ (1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入所者の方々が、地域の中で個性豊かに暮らして頂けるよう把握し、サービス提供できるよう独自の理念として作って、実践している。	利用者が家庭的な雰囲気の中で楽しく自分の出来る役割を持ち、生きがいのある生活を過ごせるように食事作りなど一人ひとりの個性を活かしてを通して支援している。職員は利用者感謝の気持ちを言葉で伝えるように心がけて接している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は、地域の中の暮らしを大切にして、地域交流や近隣の方々とも日々の暮らしを通して理解していただくようにしている。	日常的な散歩や買物の店では挨拶や会話を交わしたり、地域の行事や小・中学校の運動会、高校の文化祭に参加し、地域との交流を持っている。自治会長や近隣の家庭を訪問し、事業所の些細な事でも伝えたり、フルーツ狩りに出かけた折にはお土産を持参するなど普通の家庭としての交流を持つようになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターを通して認知症の方の御家族の相談を受けたり、認知症の方の対応をアドバイスしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、介護サービスについての取り組みや状況報告を行い、話し合った内容を家族に広報誌で伝え、活かしている。	予定日を決め事前に議題を提示し定期開催している。参加した利用者が行事などの報告時に思い出せるように写真を持参するなどの工夫をしている。感染症の情報に対するアドバイスに対応したり、野菜作りの提言を菜園で実践したりなど双方向の会議となっている。家族には会議内容を広報紙で知らせている。	地域の理解と協力を得るためにも自治会長を運営推進会議のメンバーとしてお願いすること、また、議題に応じて知識や情報を有する人々の出席を柔軟に検討し、会議内容の更なる充実を図ることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターの方々と連絡を取り合い、ケアサービスについて御理解頂き協力関係を築いている。	市役所には変更申請や定期的な報告などで出かけた際には担当部署に立ち寄り、協力関係を築くよう努めている。包括支援センターとは密に連絡を取り情報交換をし、相談やアドバイスを得たり協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	車の往来がある為、入所者の方が出入りする際に玄関の鍵を開けている。駐車場・門の整備が成され、駐車場で外気浴をしつつ歌を唄ったり、花を育てたりと開放的な暮らしをできるよう努めている。	マニュアルを整備し確認できるようにしており全職員が理解している。外出志向の利用者がおり、見守り寄り添うようにしているが、安全に配慮して各階の入り口、玄関は施錠している。閉塞感を感じないよう出来るだけ戸外に出て外気浴をしながら気分転換を図るなど配慮している。	外出志向の傾向のある利用者のその日の状態を細かく把握し、職員の見守りと寄り添う支援を徹底することで玄関、各階の開錠に向けた努力に期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い防止に努めている	グループホームからの高齢者虐待防止に関する資料を会議で配布し話し合うなど、防止の意識が高まるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、グループホーム協議会からの高齢者虐待防止に関する資料を配布し、防止の意識が高まるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結の際、契約書等十分に説明し、質問等を受け、理解を得ている。解約の時もよく話し合いを持つようになっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「よろず相談・苦情箱」を設け、いつでも利用できるようにしている。又、運営推進会議を通して、運営に反映させている。	家族の来訪時や電話でも気軽に話し易い雰囲気づくりに努めている。運営推進会議にも利用者・家族代表も参加し発言の機会を設けている。小遣いの出納は家族来訪時の閲覧方式であったが、家族からの要望で出納状況を毎月発行する準備をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ミーティングや会議等、又は職員個々に意見交換を行い、反映させている。	職員が何時でも気軽に話せるような雰囲気作り心がけている。また朝のミーティングや会議で意見を出せる機会を設けている。意見や要望が出た場合は解決に向けて話し合い反映させている。物品の買い替えや購入は若い職員からネットが手軽であるという意見があり反映するなどの事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員の削減が図られ、業務を見直し努力しているが、厳しい状況にある。働く側がやりがいのある職場となるよう務めて行きたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	公の研修については、積極的に勧めている。しかし、人員不足もあり、参加できない場合もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会主催の研修や交流会に積極的に参加し、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症ケアの基本として、入所者の方々の信頼関係を大切にしている。又、困っていることや不安がある時には、積極的に声掛けを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に当たり、御家族・担当ケアマネ等により、情報を収集し、どのような事で困っているか必ず確認している。介護計画にも取り入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人と御家族が、適切な介護サービスが受けられるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で、お互い喜怒哀楽を共にし、食卓を囲み、暮らしを共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族と情報交換を密にして、より良い介護サービスを行えるよう常に努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御本人が長年通っていた店や自宅に、御家族に相談の上、出掛けるなど支援に努めている。	一人ひとりの希望に対応している。最近亡くなった夫の墓参りや、自宅に行きたいという希望者には自宅の周辺を周ってくる事もある。喫茶店に行き友達と会うことを楽しみにしている利用者や長年行きつけの店で衣類や小物の買い物、美容室など馴染みの人、場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方々が、認知症による混乱がある場合、職員が間に入り人間関係が円滑にいくよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、様子確認に伺うなど努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、御希望や思いを伺い、叶うよう努めている。また、コミュニケーションを大切にして、本人本位になるよう努めている。	利用者の大半は言葉での意思表示が出来る。外出時の車の中、居室や入浴時など1対1になれる場所での会話は日常聴けないような思いや希望が聴ける良い機会であり大切にしている。一人ひとりの個性を見極め、コミュニケーション、スキンシップを大切にし、思いや訴えかけている事を受け止めるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所者の各居室に、その方の馴染みの物を持って来て頂き、その方らしい暮らしができるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会議等で、入所者の方々の心身状態や過ごし方などの情報交換を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を立てる際は、御家族より意向を伺い、反映させている。又、会議にて担当者が課題を抽出・話し合いし、決めている。	利用者基本情報をベースに、日ごろより本人や家族からの要望や個別記録、ケース会議での意見・要望を多く取り入れ現状に即した利用者本位の計画となるようにしている。達成状況、評価が確実に進んでいるかなどモニタリングをしながら確認しており、状況に応じて随時見直しもしている。家族には来訪時や郵送で同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしについて、個別記録を記入し様子変化を捉えるようにしている。又、モニタリングに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模な施設なので、御本人や御家族の状況に合わせて、ニーズに対応して取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	グループホームは、地域密着型なので地域のボランティア・学校関係等、常に交流を持つよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人及び御家族と話し合った上で、かかりつけ医を決定し適切な医療が受けられるよう支援している。	全員協力医が主治医であり、2週間毎に看護師と共に訪問診療したり、24時間体制で対応してくれるなど本人・家族の安心に繋がっている。内科以外の受診は家族対応を原則としているが、事業所で同行支援をすることが多い。歯科の協力医も週1回の訪問診療で希望者の治療に当たっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診に来て下さっている病院の看護職員と気軽に相談できる関係となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入所者の方が入院した時は、御家族・病院関係者等と密に連絡を取り合うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度の利用者がより良い暮らしができるよう、かかりつけ医と相談・支援していきたい。	重度化の兆しが見えるときには早い時点で本人・家族の意向を確認し、主治医など関係者と話し合いを持ち方針を決める旨契約時に説明している。急変した場合は協力医が病院の紹介や連絡など24時間体制で対応してくれる。最近、急変した利用者が救急車で搬送途中で亡くなったことを機会に重度化や終末期に対する共通理解の勉強会を考えている。	不測の事態に備えて重度化や終末期対応についての知識と職員間の共通理解の勉強会の実現に期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入所者の方の急変に合わせて、対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の自治会に加入して、災害時協力を得ることができるよう努めている。また、東日本大震災を経験し、災害時の対策について会議等で話し合いを行った。	年2回、消防署の協力を得て避難訓練を中心に通報訓練、消火訓練を実施している。利用者の避難は安全にスムーズに出来たが最後に居室を確認しなかったことや、2階の利用者がエレベーターを使用して避難したことについての指導や職員の反省もあり、次回の避難訓練に向けて検討していく課題となっている。	事業所だけの訓練でなく、地域消防団や地域住民の参加、協力を得た訓練を実施されること、また、1回は夜間を想定した避難訓練と職員ローテーションを検討し、全職員が臨機応変に行動出来るようになることを期待します。更に実施後、指摘されたことや反省事項については次回の訓練で生かすよう期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人のプライバシーを尊重し、声掛けを行う。又、記録物が目に触れぬよう注意している。	人生の先輩として利用者一人ひとりの人格を尊重し尊厳の念を持って接し、誇りやプライバシーを損ねないように全職員が対応している。スキンシップを大切に言葉もゆっくりと雑にならないよう心がけている。個人情報の記録類は指定の場所で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションを大切にして、希望や充実した生活が送れるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人の生活様式を大切にして話し合い、御希望に添った形で支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度、ボランティアの方に散髪(理髪やさんで料金を安くしていただいている)を行って頂いているが、その他に御希望の理容室・美容室に行く方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所者の方々にとって、食事は楽しみ事と捉え、嗜好を取り入れ一緒に作るよう努めている。又、片付けも行っている。	献立は職員が1週間毎に輪番で嗜好や健康面を考慮し、季節感を取り入れたものを作っている。食材の買い物、調理、後片付けまで全利用者が好みの分野を担当し、職員と一緒に楽しそうに会話をしながら行っている。料理作りに挑戦し上手に作れるようになった男性の利用者もいる。自分達と一緒に作った食事を、美味しそうに会話をしながら食べている姿は喜びと充実感に満ちて生き生きしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日頃より、食事量や栄養バランス等を観察している。嗜好を大切にするなどして、できるだけ安定的に摂取できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入所者の方々の自尊心を傷つけないように声掛けを行い、口腔ケアを行って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を把握して、その方に合った対策・対応をするよう努めている。	オムツを使用している利用者はいないが大半はリハビリパンツ、パットを使用しており、自分でトイレに行けるが、時には様子を見ながら声掛けや誘導もしている。排泄介助時には言葉づかいに注意しプライバシーを損ねないような配慮をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入所者の方のプライバシーを保てる範囲で確認を行い、一緒に原因を考え飲食物を工夫したり、運動するなど働きかけをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は御希望を伺い、その方に合わせた形で入浴が楽しめるよう支援している。	入浴は毎日可能で午後の時間帯になっているが、隔日の入浴を希望する利用者が多い。入浴を拒む利用者は衣服を脱ぐことを嫌うことが多く、根気強く色々な方法を試み、タイミングを逃がさないようにして対応している。入浴剤を使用したり、柚子や菖蒲を入れ季節感を味わいながら入浴を楽しむようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所者の方の生活リズムを把握して、安心して休んで頂けるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、病院・往診等で受診した内容について、連絡ノートで把握し、服薬の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活に張り合いが持てるように、ケアを行っている。又、「できる」という実感が持てるよう役割作りを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入所者の方々が、できる限り自由な暮らしができるように、御希望に合わせて外出するよう支援している。	事業所周辺の散歩、食材の買出しなど毎日の外出や、朝に新聞の大売出しの広告を見て買物の希望に対応することもあり、外出の機会が多い。また、地域の行事、学校の運動会や文化祭、利用者の手作り弁当を持参した花見や紅葉狩りなど四季折々の外出の機会を増やす工夫で、自由な生活が出来るよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所者の方の御希望に合わせて話し合い、所持して頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常生活の中で、御希望に応じて電話をしたり手紙をやり取りするなど支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、居心地のよい雰囲気になるよう配慮し、生活感や季節感を取り入れている。	リビングの一角には初市で購入した大・小様々の達磨が置かれていたり、節分が終わると雛壇の飾りつけが予定されており、季節感を取り入れている。窓際の眺めの良い一角には、ソファが置かれ新聞や本を読んだり一人になれる場所がある。また、駐車場の一部のスペースにはベンチが置かれ外気浴や行事なども行えるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関にベンチがあったり、リビングにソファがあったりと、独りになれたりするよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、今までの生活で使ってきた物、馴染みの物を持って来て頂き、居心地のよい空間となるようにしている。	持込の制限は特になく、自宅で愛用していた馴染みのベットやご主人の位牌を持ち込んでいる利用者もいる。書や塗り絵などの自作品や家族の写真は利用者の好みに合わせて目に付きやすいところなどに飾っている。全体的に持ち込み品は少ないが、職員と一緒にレイアウトを考え居心地よく暮らせるような居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入所者の方の持てる力を活かして、生活ができるよう支援している。		